

夜泣き貝と お法使祭

寺中地区にある「津森神宮」は欽明天皇2(540)年の創建。宝治元(1247)年に、時の将軍、藤原頼嗣により現在の場所に遷宮し建立したという、1500年以上の歴史を持つ由緒ある神宮です。

境内には3つの社があり、正面の社には歴代の天皇が祭られ、右手の社は天照大神、左手の社は国つくりの神と、三社参りができます。

境内にそびえるイチヨウのご神木には「夜泣き貝」という小さな貝が宿っています。「この貝を赤ちゃん」の枕の下に置くと、夜泣きをしなくなるという言い伝えがあります」と



由緒ある歴史を誇る津森神宮

教えてくれたのは、宮司の甲斐喜三男さん(65)です。

津森神宮の有名な祭りが「お法使祭」。祭りの由来は諸説あります。一つは、天智天皇と藤原氏命が降臨し、津森神宮周辺の12の地区を1年ごとに巡行したという説。

一方、朝廷の使いの勅使が不思議な力を持ち、氏子地域を回ったという説です。いずれもご神体と共に巡幸したことから、神殿の代わりとなる「御飯屋」が作られたそうです。

今年10月29日に津森神宮の本宮拝殿で神事が執り行われ、30日に小谷の御飯屋からご神体をみこしに乗せ、杉堂地区に移されました。来年は西原村を回りその後、菊陽町へ。ご神体が益城町に戻るのは7年後の



上／境内のイチヨウの木に宿っている「夜泣き貝」

左／教師だった甲斐宮司の話はとても分かりやすく耳に入ります



今年10月に行われた「お法使祭」の様子

ことです。このお法使祭は、県重要無形民俗文化財に指定されています。

昭和の良き時代の 思い出

寺中地区と田原地区を走る県道28号。かつては津森神宮前の旧道が幹線道路でした。今から70年ほど前、この旧道沿いに劇場があったそうです。板敷きの芝居小屋には旅役者や浪曲師の一座の舞台が掛かり、多くの人たちが舞台を鑑賞したそうです。

話を聞かせてくれたのは、田原地区に住む吉水賢治さん(79)です。「私の祖父が営んだ芝居小屋でした。昭和28年に白川大水害で被災し、板張りを剥いで椅子を置きました。そ



当時の話を聞かせてくれた吉水賢治さん(左)と、長男の孝道さん(55)



吉水さんの自宅玄関に飾られた懐かしい映画のポスター

の頃、映画を上映し『津森映劇』と屋号をあらためました」と話します。吉水さんの家の玄関には、当時の映画のポスターがたくさん飾られています。美空ひばり、小林旭、浅岡ルリ子、石原裕次郎といった往年のスターたちの若き日の顔が懐かしさを呼び起こします。中にはプロレスラーの力道山が主役の映画「打っ！蹴る！殴る！世紀の決闘」という、今では問題視されてしまうような